



YAMAHA PortaSound PS-300
取扱説明書

ごあいさつ

このたびはヤマハポータサウンドをお買い上げいただきまして、ありがとうございました。

ポータサウンドは、常に新しい電子鍵盤楽器を誕生させてきたヤマハのエレクトロニクス技術を、コンパクトなサイズの中に盛り込んだ、新しい鍵盤楽器です。オルガン、ピアノなどさまざまな音色を自由に選べ、しかも簡単に演奏が楽しめる自動伴奏装置つき。そして、どこへでも持っていけるポータブルなボディ。このような特長をもったポータサウンドは、いつでも、どこでも、どなたでも、気軽に音楽とふれあえる楽器です。

本書では、このポータサウンドを充分お楽しみいただくために、正しい取扱いかたをご説明していきます。実際に操作しながらぜひご一読ください。

目次

取扱い上の注意	1
各部の名称と働き	2
オーケストラ	4
リズム	5
オートベースコード	6
オートベースコード一覧表	8
楽譜の読み方	9
さあ、曲を弾きましょう	10
このような現象は故障ではありません	13
付属端子とオプション	14
仕様	16
アフターサービスと保証	17

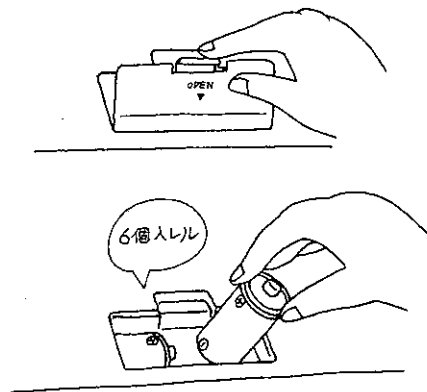
(取扱い上の注意)

長くお楽しみいただくために、次の点にご注意ください。

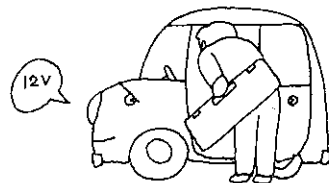
①ポータサウンドの電源は、乾電池、家庭用コンセント、カーバッテリーの3つを使用することができます。AC電源とカーバッテリーを使用する場合は、専用のアダプターが必要になりますから、接続方法などについては14ページの「付属端子とオプション」をよくお読みください。

●電池の入れ方

本体を裏返して、図のようにフタを開けてください。付属の乾電池(単2型)6個を⊕⊖の向きをまちがえないように入れて、フタを元どおりにしっかりと閉めます。

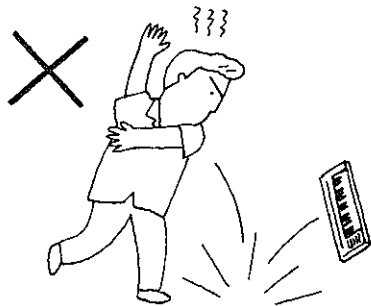


②カーアダプター(別売)は、12Vマイナスアース車専用です。接続する前に車のバッテリーが12Vのものであることを必ず確認してください。



③特に湿気が高い場所に置くことはさけてください。

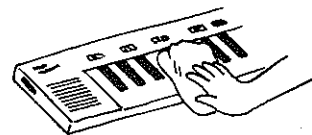
④過度な衝撃や無理な力を加えると、傷がついたり、故障の原因となることがあります。本体を落としたり、上に座ったりしないように注意してください。



⑤強い直射日光に長時間さらすことはさけてください。

⑥暖房器具のそばに置いたり、日中、車内に長時間放置しておくことはさけてください。車の窓を閉めきっているとき、直射日光が当たっていると、車内の温度は80℃以上にもなります。極端に温度が高い場所(60℃以上)に置いておくと本体の外側や内部に悪影響を与え、故障の原因となることがあります。

⑦本体のお手入れは、乾いた布でカラぶきするか、よごれの目立つときは少し水で湿らせた布でふいてください。尚アルコールやシンナー類は使用しないでください。



⑧ホコリや衝撃から守るため、ご使用にならないときは、付属の専用ケースに収めるようにしてください。

⑨ご使用後は必ず電源スイッチを切ってください。

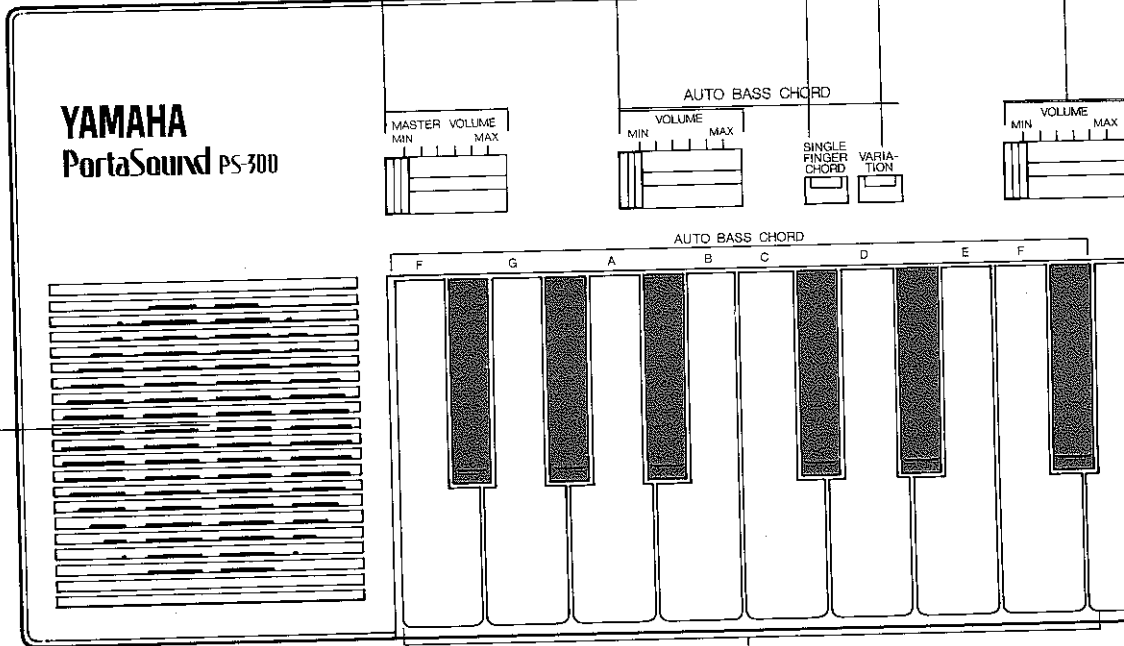
⑩パイロットランプが点滅していたら電池がなくなりはじめです。雑音や誤動作の原因になりますのですべて新しいものと交換してください。

(各部の名称と働き)

●和文表示シートについて

PS-300には、本体の各部の名称が和文で書かれたシートがついています。和文の方が便利という方は、シートに両面テープが貼附してありますので、本体にはってお使いください。

スピーカー



オートベースコード(6,7ページ) 指1本で伴奏が弾ける自動伴奏装置。

オートベースコード用
音量レバー

シングル
フィンガーコード
指1本で伴奏できる
ようにするボタン。

バリエーション
コードの音色および
バックイングパターン
とベースパターンを
変化させるボタン。

リズム用
音量レバー

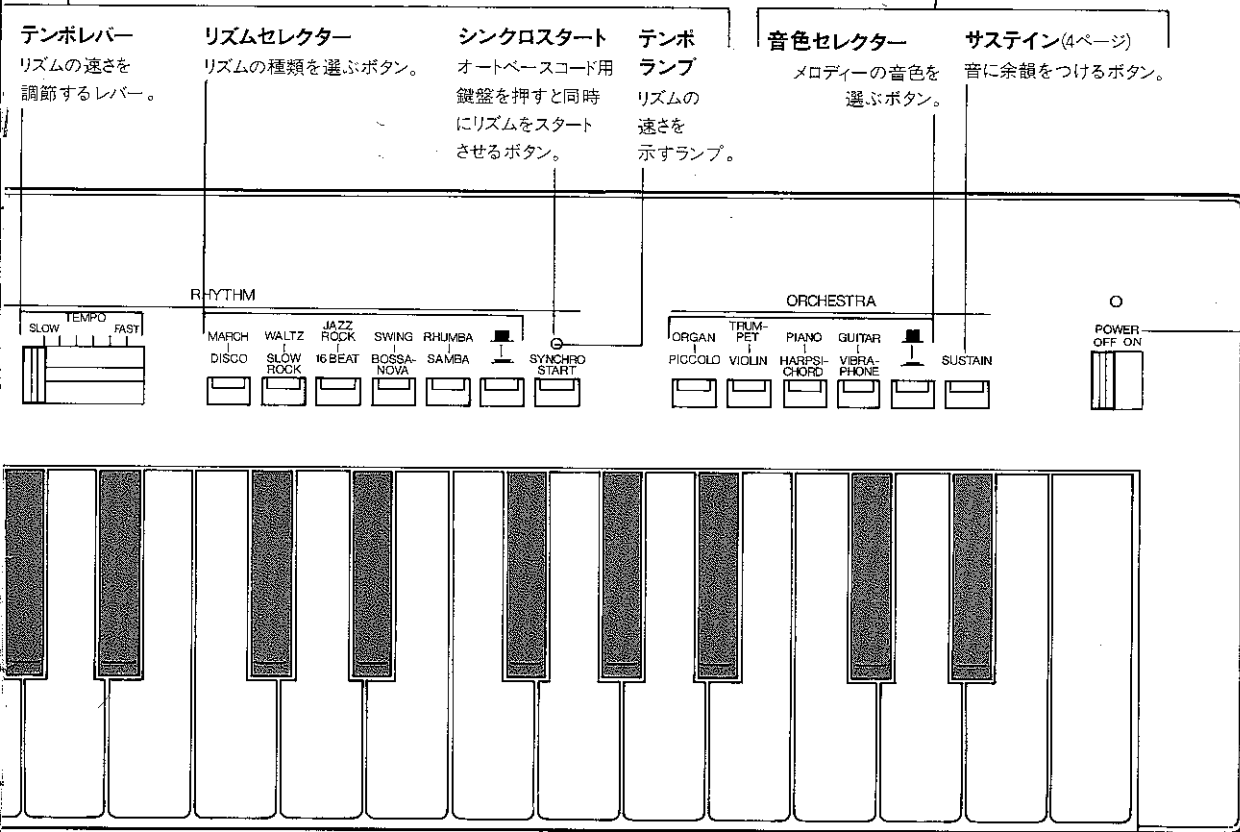
総合音量レバー(4ページ)
全体の音量を調節。

オートベースコード用鍵盤(6,7ページ)

指1本の自動伴奏をするとき、伴奏を受けもつ鍵盤です。また、リズムのスタートスイッチにも使います。

リズム(5ページ) 歯切れのよい打楽器音で自動的にリズムをきざみます。

オーケストラ (4ページ)



電源スイッチ(4ページ)

電気が通じると上の赤いランプが点灯します。

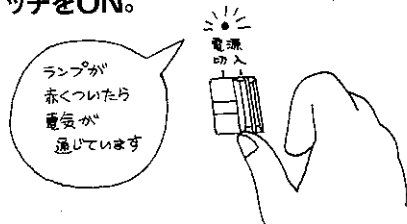
★ピッチコントロール

本体の裏面には、音程を微妙に調整できる、ピッチコントロールがついています。キャップをとって、小型マイナスインドライバーでまわしてください。

(オーケストラ)

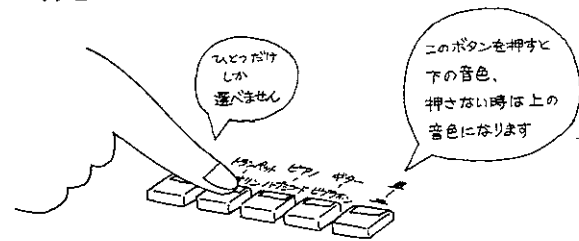
好きな音色をおえらびください。

① 電源スイッチをON。



★電源スイッチの上にある赤いランプが点滅しはじめたら、電池を用意してください。

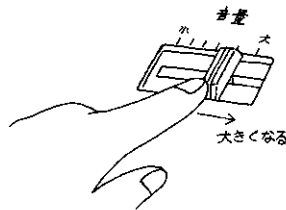
② オーケストラの音色セレクターから好きな音色を選びます。



★音色のセレクトボタンがすべてOFFの場合、オルガンの音になります。

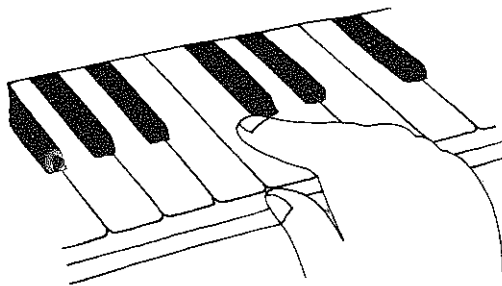
★同時に2つ以上の音色をONすると、右側の音色が優先します。

③ 総合音量レバーで、音の大きさを調節。



さあ、鍵盤をおさえて!

いかがですか? 選んだ音色が出たと思います。ボタンやつまみを操作して、いろいろな音色でメロディーを弾いてみましょう。



④ サスティン(余韻)を加えてみましょう。

サスティンというのは、音にピアノのような自然な余韻をつける効果です。サスティンのボタンを押すと、音色セレクターで選んだ音色に余韻がつき、鍵盤から指を離れたあとも音が残って、自然に消えていくようになります。(ピブラホンを除く)



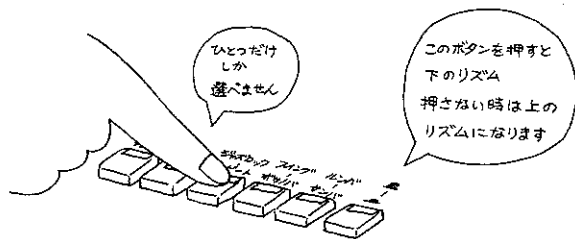
- ★シングルフィンガーコードのボタンがONになっていると、オートベースコード用鍵盤部では、選んだ音色はできません。
- ★同時に8つの音まで鳴らせます。ただし、オートベースコード使用時には4音までしか鳴らさせません。

(リズム)

演奏にドラムをくわえましょう。

シンクロ、スネアドラムなど歯切れのよい打楽器音で、自動的にリズムをきざみます。

① 曲に合ったリズムを選びます。



★ワルツは3拍子、そのほかのリズムは4拍子です。

★2種類以上のリズムを組み合わせることはできません。2つ以上同時に押した場合は、右側のリズムが優先して出てきます。

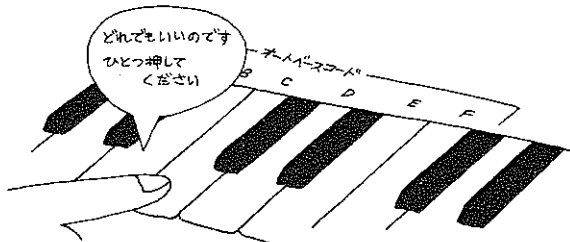
★リズムセクターを押しただけでは、リズムは鳴り出しません。

★リズムのセレクトボタンがすべてOFFの場合、マーチのリズムになります。

② シンクロスタートのボタンを押します。

★リズムを止めたいときは、シンクロスタートのボタンをもう一度押してください。

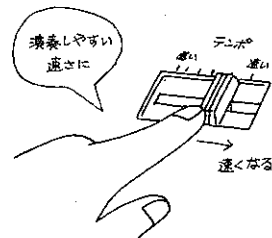
③ オートベースコード用鍵盤をどれか押すと、リズムがスタート。



★リズムは第1拍目から鳴りはじめます。メロディーのタイミングとうまく合わせて、オートベースコード用鍵盤を押してください。

④ リズム用音量レバーで、リズム音の大きさを調節。

⑤ テンポレバーで、リズムの速さを調節。



● テンポランプ(リズムの速さを示すランプ)

リズムを鳴らしているとき、リズムの第1拍目に赤く点滅しますから、メロディーとのタイミングを合わせるのに便利です。また、シンクロスタートボタンを押しただけで、まだリズムをスタートさせていない間は、4分音符の単位で点滅しますから、リズムの速さを目で確認することができます。

リズムに合わせてメロディーを。

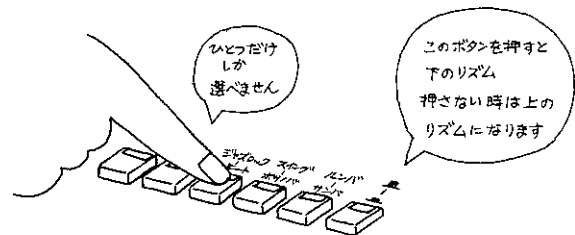
それでは、リズムをつけてメロディーを弾いてみましょう。リズムにのりにくいときは、テンポランプを見ながら「1、2、3、4」と体で拍子をとりながら弾くと、うまくいきます。

(オートベースコード)

コードとベースのオートプレイ。

オートベースコード用の鍵盤をひとつおさえるだけで、和音とベース音がリズムによって出てきます。

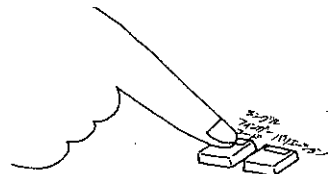
① 曲に合ったリズムを選びます。(くわしくは5ページを)



② シンクロスタートのボタンを押します。

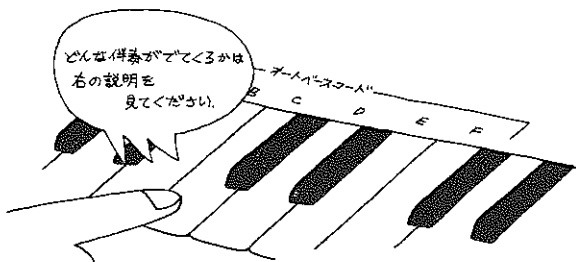


③ シングルフィンガーコードのボタンを押します。

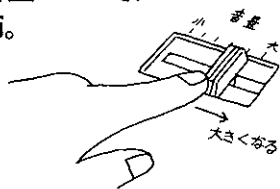


④ 指1本でオートベースコード用鍵盤を押すと……

和音とベース音がリズムによって出てきます。また、鍵盤から指をはなしても、同じ伴奏がくり返されます。



⑤ オートベースコード用音量レバーで、伴奏音の大きさを調節。

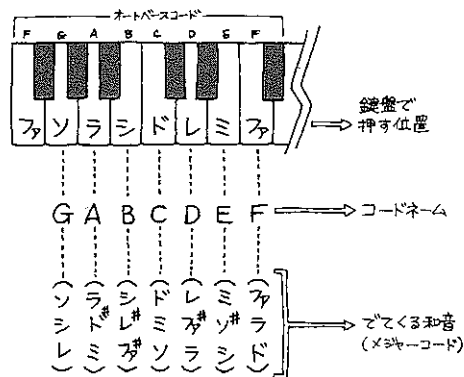


バリエーションでベース音に変化を。

バリエーションは、オートベースコードによる自動伴奏のコードの音色及びバックギングパターンと、ベースパターンを変化させるボタンです。変化するパターンは、選んだリズムによって決まります。

オートベースコードで伴奏をつけて曲を弾いてみましょう。

まず、次の図を見てください。



これは、オートベースコード用鍵盤を押す位置と、出てくる和音の関係を示したものです。

それでは、実際の曲でABC(オートベースコード)の練習をしましょう。曲はおなじみの「ハッピーバースデイトウユー」。3拍子ですから、リズムはワルツをセットしましょう。

ハッピーバースデイトゥユー

アメリカ民謡

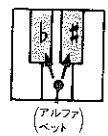
日本音楽著作権協会(出)許諾第8211278号

- ★コードを変えるところで、指を鍵盤からはなさずに動かすと、コードが変わらないことがあります。鍵盤を押したらすぐ指をはなすようにすると、うまくいきます。
- ★リズムをセットしなければ、オートベースコードの伴奏は和音が続くもの(持続音)になります。曲によっては、この方が効果的な伴奏ができます。また、リズムが合わせづらいときも、持続音の伴奏で練習するとやさしくできます。
- ★リズムとオートベースコードを使って伴奏するとき、伴奏の音色は、音色セクターで選んだ音色に関係ありません。

#、bのついているコードの出し方

メジャーコードの中には、[F#]や[Bb]のように#(シャープ)やb(フラット)のついているものがあります。この#、bは、音符に付いている場合と同じように、半音上げる(シャープ)、半音下げる(フラット)ように指示する記号です。

#がついていたら、前のページで説明した位置の右上の黒鍵、bがついていたら左上の黒鍵を押せば、#・bのついたコードが出せます。



セブンスコード、マイナーコードの出し方。

ここで使ったようなアルファベット1文字のコード(C、Dなど)をメジャーコードといいます。伴奏はメジャーコードだけとは限りません。例えば[G7]のようなセブンスコード、[Am]のようなマイナーコードもよく使われます。これらも、下図のように、2つの鍵盤を同時に押すことで出すことができます。

C (メジャーコード)

C7 (セブンスコード)

Cm (マイナーコード)

Cm7 (マイナーセブンスコード)

メジャーコードで押した鍵盤より左側の白鍵を同時に押す (どれでもよい)

メジャーコードで押した鍵盤より左側の黒鍵を同時に押す (どれでもよい)

メジャーコードで押した鍵盤より左側の白鍵と黒鍵を同時に押す (どれでもよい)

(オートベースコード一覧表)

メジャー・コード

そのコード名のキーを押します。

C	
C [♯] /D	
D	
D [♯] /E	
E	
F	
F [♯] /G [♯]	
G	
G [♯] /A	
A	
A [♯] /B	
B	

マイナー・コード

そのコード名のキーと、それより低い方の黒鍵を押します。

Cm	
C [♯] /Dm	
Dm	
D [♯] /Em	
Em	
Fm	
F [♯] /Gm	
Gm	
G [♯] /Am	
Am	
A [♯] /Bm	
Bm	

セブンス・コード

そのコード名のキーと、それより低い方の白鍵を押します。

C7	
C [♯] /D7	
D7	
D [♯] /E7	
E7	
F7	
F [♯] /G7	
G7	
G [♯] /A7	
A7	
A [♯] /B7	
B7	

マイナー・セブンス・コード

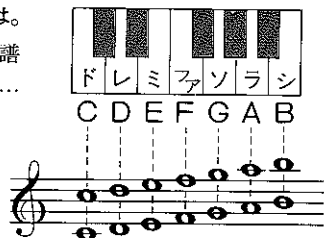
そのコード名のキーと、それより低い方の黒鍵と白鍵を押します。

Cm7	
C [♯] /Dm7	
Dm7	
D [♯] /Em7	
Em7	
Fm7	
F [♯] /Gm7	
Gm7	
G [♯] /Am7	
Am7	
A [♯] /Bm7	
Bm7	

(楽譜の読み方)

●五線譜の読み方は。

はじめに、鍵盤と五線譜
の関係を示してみると…



●音符と休符の長さは。

音符の種類と名称	4分音符と比較した長さ	⇔	休符の種類と名称	4分休符と比較した長さ
○ 全音符	↑↑↑↑ 4つ分のばす	⇔	— 全休符	♪♪♪♪ 4つ分休む
┌ 付点2分音符	↑↑↑ 3つ分のばす	⇔	— 付点2分休符	♪♪♪ 3つ分休む
┌ 2分音符	↑↑ 2つ分のばす	⇔	— 2分休符	♪♪ 2つ分休む
┌ 4分音符	↑ 1つ分のばす	⇔	♪ 4分休符	♪ 1つ分休む
♩ 8分音符	♩ (♩ = ♩) 半分にする	⇔	♪ 8分休符	♪ (♪ = ♩) 半分休む
♪ 3連音符	♪ (♪ = ♩) 3等分する			

(♪♪♪) は ♩ を3等分

●記号を覚えましょう。

記号とよみ方	意味	記号とよみ方	意味
♯ シャープ	半音あげる	◡ フェルマータ	その音をのばす
♭ フラット	半音さげる	Tacet タセット	伴奏を休む
♮ ナチュラル	もとの音にもどす	Fine フィーネ	おわり
〜 タイ	音を続ける		
スラー	なめらかに		

記号とよみ方	意味
: : リピート	くりかえし
1 2 1 2 番かつこ 2番かつこ	くりかえしのあと2
D.C. ダカーボ	最初から。 Fine D.C.
D.S. ダルセーニョ	記号*から。 Fine D.S.
♯ Coda コーダ	くりかえしのあと* Codaへ。

(さあ、曲を弾きましょう)

AUTO BASS CHORD

VOLUME MIN MAX

SINGLE FINGER CHORD VARIATION

RHYTHM

VOLUME MIN MAX

TEMPO SLOW FAST

MARCH DISCO WALTZ SLOW ROCK JAZZ ROCK 18 BEAT BOSSA NOVA SWING RUMBA SAMBA

SYNCHRO START

ORCHESTRA

ORGAN PICCOLO TRUMPET I VIOLIN HARP/PSYCHO PIANO HARP/PSYCHO GUITAR VERBA-PHONE SYSTAIN

四季のうた 作詞/作曲 荒木とよひさ

Dm Am E7 Am Am

はるをあいするひとは

Dm Am Dm Am E7 Am

こころきよきひと すみれのはなのようなーぼくのともだち

B7 E7 Am Dm Am

なつをあいするひとは こころつよきひと

Dm Am E7 Am Dm Am

いわをくだくなみのようなぼくのちちおや

※エンディングは1オクターブ下で弾きましょう。

©1972 & 1976 by Pacific Music Publishing Co., Ltd. 日本音楽著作権協会(出)許諾第8211278号

AUTO BASS CHORD

VOLUME	
MIN	MAX
SINGLE FINGER CHORD	
VARIATION	

RHYTHM

VOLUME		SLOW		TEMPO		FAST	
MIN	MAX						
MARCH	WALTZ	JAZZ	SWING	RHUMBA			
DISCO	SLOW ROCK	ROCK	BOSSA NOVA	SAMBA			

ORCHESTRA

ORGAN	TRUMPET	PIANO	GUITAR	
PICCOLO	VIOLIN	HARP	VEHICLE	SUSTAIN

エーデルワイス 作詞/作曲 O.ハマースタイン R.ロジャース

The musical score is written in 3/4 time and consists of six staves. The first five staves contain the main melody with chords: C, F, C, G7, C, G7, C, F, C, C(A7), Dm, G7, C, G7, C, F, D7, G7, C, C7, F, Fm, C, G7, to C. The sixth staff is a Coda section starting with C, F, Fm, and C. The piece ends with 'D.C.' (Da Capo).

AUTO BASS CHORD

VOLUME		SINGLE FINGER CHORD	VARIATION
MIN	MAX		
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

RHYTHM

VOLUME		TEMPO	
MIN	MAX	SLOW	FAST
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

<input type="checkbox"/> MARCH DISCO	<input type="checkbox"/> WALTZ SLOW ROCK	<input type="checkbox"/> JAZZ ROCK HE BEAT	<input type="checkbox"/> SWING BOSSA NOVA	<input type="checkbox"/> RUMBA SAMBA	<input type="checkbox"/> O SYNCHRO START
--------------------------------------	--	--	---	--------------------------------------	--

ORCHESTRA

<input type="checkbox"/> ORGAN	<input type="checkbox"/> TRAMPET	<input type="checkbox"/> PIANO	<input type="checkbox"/> GUITAR	<input type="checkbox"/> SUSTAIN
<input type="checkbox"/> PICCOLO	<input type="checkbox"/> VIOLIN	<input type="checkbox"/> HARPSICHORD	<input type="checkbox"/> VERA-PHONE	<input type="checkbox"/>

サウンド・オブ・サイレンス 作詞/作曲 ポール・サイモン

The musical score is written in treble clef with a key signature of one flat (Bb) and a common time signature (C). It consists of six staves of music. The first staff begins with a '(Tacet)' instruction. Chord symbols are placed above the notes: C, Dm, F, Bb, F, Bb, F, Dm, F, Bb, F, Dm, F, C, Dm. The score includes various musical notations such as rests, slurs, and repeat signs.

© Copyright 1964 by PAUL SIMON. Rights for the World (Excluding U.S.A. Canada, Mexico & South America) controlled by PATTERN MUSIC LTD., London, England. Rights for Japan controlled by Shinko Music Publishing Co., LTD.

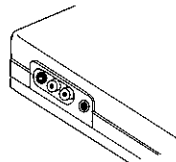
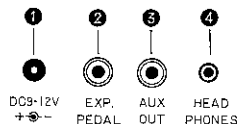
日本音楽著作権協会(出)許諾第8211278号

このような現象は故障ではありません

現 象	原 因	解 決 法
音色セクターで選んだ音色とは別の音色が出る。	①上下セクターを操作していない。 ②オートベースコードを使っているとき、オートベースコード用鍵盤部で弾いている。	①4ページの説明を読んで操作もれがないかどうか確認してください。 ②オートベースコードを使っているとき、伴奏の音色は、音色セクターの音色と関係ありません。
鍵盤を同時に9音おさえても8音しかでない、また、シングルフィンガーコードをONしたとき、メロディー用鍵盤部では、同時に5音押しても4音しかでない。	鍵盤の音は、同時に最高8音までしかでないようになっています。また、オートベースコード使用時は、メロディー部で同時に4音までしかでないことになっています。	先におさえた音が優先します。
リズムの音がでない。	①シンクロスタートが押されていない。 ②オートベースコード用鍵盤部を押していない。 ③リズムの音量が最小になっている。	5ページの説明をよんで操作もれがないかどうか確認してください。
リズムセクターで選んだリズムとは別のリズムがでてる。	①上下セクターを操作していない。	
オートベースコードの音がでない。またはリズムにのらない。	①シングルフィンガーコードのボタンが押されていない。 ②オートベースコード用鍵盤部を押さえていない。 ③オートベースコード用音量が最小になっている。 ④シンクロスタートが押されていない。	6、7ページの説明を読んで、操作もれがないかどうか確認してください。
音がひずむ。	PS-300の音量は大きめにセットされていますので、すべての音量を最大にするとひずむことがあります。	音量を調節してください。
パイロットランプが点滅する。	①電池がなくなりかかっている。 ②音量が大きいき、一時的に電圧がさがりため。	①新しい電池をご用意ください。 ②ご心配いりません。
ステレオに接続したり、FMトランスミッターを使ったりすると、音がひずむ。	総合音量が最大になっているとひずむことがあります。	最大より1めもり以上さげてください。

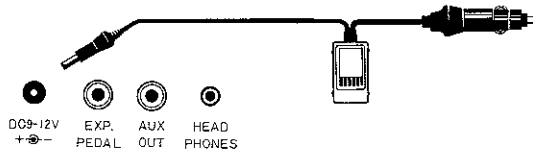
(付属端子とオプション) 別売付属品

PS-300の本体左側には、図のような付属端子がっています。
これらを活用すれば、楽しさはいっそう広がります。



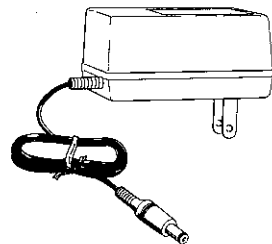
① DC 9V-12V IN端子

家庭用コンセントやカーバッテリー(シガーライターソケット)から電源をとるときには、この端子を使います。専用のアダプターを接続してください。

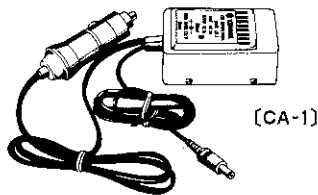


オプション(別売)

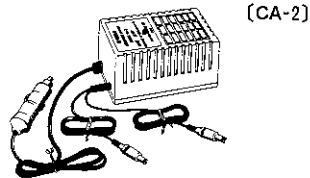
●電源アダプター〔PA-1〕
AC100V(家庭用コンセント)から、DC12Vを取り出す電圧変換器です。本体の〔DC9V-12V IN〕へ電源を供給します。



●カーアダプター〔CA-1〕
車のシガーライターソケットから本体へ電源を供給します。このアダプターは、異常電圧から本体を保護するための回路を内蔵しています。



●カーアダプター〔CA-2〕
接続コードが2つに分かれているタイプで、本体と同時にトーンボックスなどへの電源が取りだせます。



② EXP. PEDAL端子

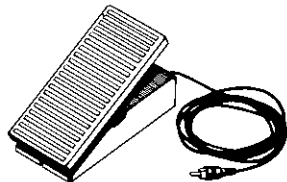
●エクスプレッションペダルは、演奏中、足で自由に音量を調節することができるペダルです。このEXP. PEDAL端子に接続してお使いください。



オプション(別売)

●エクスプレッションペダル〔EP-1〕

音量を自由にコントロールできるフットペダルです。EP-1を取り付けることで、表現力をいっそう幅広いものにすることができます。

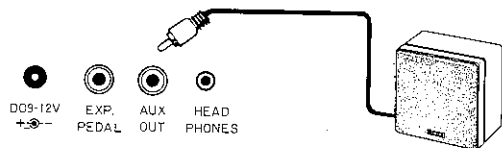


③AUX OUT端子

より豊かな音量で

PS-300内蔵のスピーカーでも十分な音量でお楽しみいただけますが、より大きな音量が必要なときには、このAUX OUT端子を使って、アンプや専用スピーカー(TO-100)などに接続してください。迫力あるサウンドが楽しめます。

また、ステレオなどのスピーカーから音を出したいときにも、この端子を使います。ステレオなどのLINE IN(AUX IN)ジャックに接続してください。

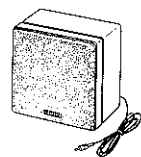


演奏を録音

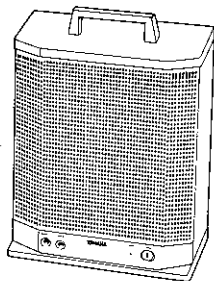
PS-300の演奏を録音したいときは、このAUX OUT端子を使って、テープデッキのLINE IN(AUX IN)ジャックに接続してください。録音レベルは、テープデッキで調整できます。

オプション(別売)

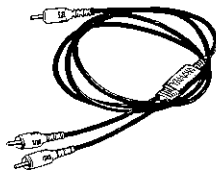
●スピーカー(TO-100)
TO-100は、PSシリーズ専用の外部スピーカーです。AUX OUT端子に接続してより豊かな音量で演奏を楽しむことができます。



●トーンボックス(TO-1)
TO-1はPSシリーズ専用の外部スピーカーで、アンプを内蔵しています。TO-1を接続すると、より豊かな音量で演奏を楽しむことができます。(出力5W)

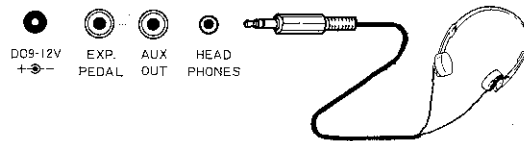


●分岐接続コード(PC-2)
出力をステレオに接続して録音したり、ステレオ装置で音をだしたいときに使う分岐接続コードです。



④HEADPHONES端子

●ヘッドホンを接続する端子で、ステレオ、モノラルどちらのタイプのヘッドホンでもご使用になれます。ヘッドホンを使うと、本体のスピーカーからは音が出ませんから、夜間でも周囲への迷惑を気にすることなく、心ゆくまで演奏をお楽しみいただけます。

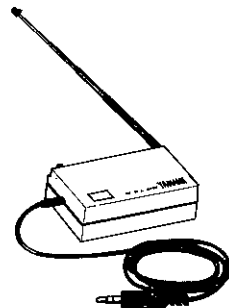


●FMトランスミッターをお使いになるときも、この端子に接続します。[このとき、本体のスピーカーからは、音は出ません]

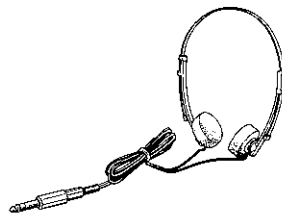
オプション(別売)

●FMトランスミッター
[PTM-1]

PTM-1は、FMステレオなどの受信機に発信することができます。コードが不要ですから、よりアクティブな楽しみ方ができます。



●ヘッドホン(YH-35)



(仕様)

▶鍵盤数

37鍵(F1~F4)

▶音色

オルガン——ピッコロ

トランペット——バイオリン

ピアノ——ハーブシコード

ギター——ビブラホン

上下セレクター

▶効果

サスティン(ビブラホンを除く)

ディレイビブラート組込

▶リズム

マーチ——ディスコ

ワルツ——スローロック

ジャズロック——16ビート

スイング——ボサノバ

ルンバ——サンバ

上下セレクター

〈コントロール〉

シンクロスタートスイッチ

テンポコントロール

リズム用音量レバー

テンポランプ

▶オートベースコード

シングルフィンガーコード

バリエーション

〈コントロール〉

オートベースコード用音量レバー

▶コントロール

電源スイッチ

パイロットランプ

総合音量レバー

ピッチコントロール(±1/4音)

▶付属端子

HEADPHONES 端子

AUX OUT 端子

EXP. PEDAL 端子

DC 9V-12V IN 端子

▶メインアンプ 1.4W

▶スピーカー 7.7cm(6Ωインピーダンス)

▶定格電源 DC9V:単2乾電池6個
電源アダプター
カーアダプター

▶付属品

専用ハードケース

単2乾電池6個

和文表示シート

▶消費電力 2.3W(電源アダプター、PA-I
使用、オルガン最大音量時)
1.8W(電池使用、オルガン最
大音量時)電池寿命10時間

▶寸法・外装 間口54.3cm 奥行15.2cm 高
さ4.3cm 重量1.4kg
(乾電池重量を含まず)
スチロール樹脂、シボ加工仕
上げ

(アフターサービスと保証)

●サービスの依頼は、お買い上げ店へ直接お申し付けください。

■本機の保証は、保証書によりご購入日から満1年です。尚、現金、クレジットなどによる保証の区別はいたしません。

■保証期間の1年を過ぎても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か右記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、直接お買い上げ店にお持ち込みください。責任を持って修理調整をいたします。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”と思われましたら、“このような現象は故障ではありません”の項をいま一度お読み頂き、お確かめください。(ご依頼をお受けして点検いたしますと故障でない場合でも点検代を申し受けますのでご注意ください。)

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号をハッキリお知らせください。また勤めて昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客さまにご迷惑をおかけないですみます。)

〈お客様ご相談窓口〉

東京電音サービスセンター

- 東京ステレオサービスステーション
- 東京電音サービスステーション
- 横浜電音サービスステーション
- 新潟電音サービスステーション

大阪電音サービスセンター

- 大阪ステレオサービスステーション
- 大阪電音サービスステーション
- 四国電音サービスステーション

名古屋電音サービスセンター

- 名古屋電音サービスステーション
- 北陸電音サービスステーション
- 浜松電音サービスステーション

九州電音サービスセンター

- 九州電音サービスステーション
- 広島電音サービスステーション

北海道電音サービスセンター

- 北海道電音サービスステーション

仙台電音サービスセンター

- 仙台電音サービスステーション

〈お預り品修理拠点〉

- 東京電音サービスデポ
- 大阪電音サービスデポ
- 名古屋電音サービスデポ
- 九州電音サービスデポ
- 北海道電音サービスデポ
- 仙台電音サービスデポ

〈本社〉

営業技術部 電音サービス課

☎(03) 255-2241

☎(03) 255-2241

☎(03) 255-2241

☎(045)212-2223

☎(0252)43-4321

☎(06) 877-5262

☎(06) 445-6421

☎(06) 877-5262

☎(0878)33-2233

☎(052)231-2432

☎(052)231-2432

☎(0762)43-5341

☎(0534)56-9211

☎(092)472-2137

☎(092)472-2137

☎(082)874-3787

☎(011)781-3621

☎(011)781-3621

☎(0222)22-6144

☎(0222)96-0249

☎(03) 904-4901

☎(06) 877-5262

☎(052)231-2432

☎(092)472-2137

☎(011)781-3621

☎(0222)96-0249

☎(0534)65-1111

〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F)

〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F)

〒100 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F)

〒231 横浜市中区本町6-61-1

〒950 新潟市万代1-4-8(シルバーポールビル2F)

〒564 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内)

〒550 大阪市西区江戸堀1-9-1(肥後橋センタービル6F)

〒564 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内)

〒760 高松市南新町6-1(岡田ビル2F)

〒460 名古屋市中区栄1-8-7

〒460 名古屋市中区栄1-8-7

〒921 金沢市泉本町7-7

〒430 浜松市東伊場2-14-1

〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

〒731-01 広島市安佐南区祇園町西原2205-3

〒065 札幌市東区本町1条9-3

〒065 札幌市東区本町1条9-3

〒980 仙台市大町2-2-10(住友生命仙台台青葉通りビル)

〒983 仙台市卸町5-7(仙台卸商共同配送センター3F)

〒171 東京都練馬区高野台2-3-10

〒564 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内)

〒460 名古屋市中区栄1-8-7

〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

〒065 札幌市東区本町1条9-3

〒983 仙台市卸町5-7(卸商共同配送センター3F)

〒430 浜松市中沢町10-1



本 社 / 〒430 浜松市中沢町10-1

☎ 0534(65)1111

東京支店 / 〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル

☎ 03(572)3111

大阪支店 / 〒542 大阪市南区南船場3-12-9/心斎橋ビル東館

☎ 06(251)1111

名古屋支店 / 〒460 名古屋市中区錦1-18-28

☎ 052(201)5141

九州支店 / 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

☎ 092(472)2151

北海道支店 / 〒064 札幌市中央区南十条西1-4/ヤマハセンター

☎ 011(512)6113

仙台支店 / 〒980 仙台市大町2-2-10

☎ 0222(22)6141

広島支店 / 〒730 広島市中区基町13-13/平和生命広島ビル8F

☎ 082(221)4122

浜松支店 / 〒430 浜松市田町32/東京海上ビル

☎ 0534(54)4116